

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年10月26日(2006.10.26)

【公表番号】特表2006-504635(P2006-504635A)

【公表日】平成18年2月9日(2006.2.9)

【年通号数】公開・登録公報2006-006

【出願番号】特願2004-506367(P2004-506367)

【国際特許分類】

A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	9/08	(2006.01)
A 6 1 K	9/10	(2006.01)
A 6 1 K	9/14	(2006.01)
A 6 1 K	47/24	(2006.01)
A 6 1 P	11/00	(2006.01)
C 0 7 K	7/08	(2006.01)
C 0 7 K	14/785	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	37/02	Z N A
A 6 1 K	9/08	
A 6 1 K	9/10	
A 6 1 K	9/14	
A 6 1 K	47/24	
A 6 1 P	11/00	
C 0 7 K	7/08	
C 0 7 K	14/785	

【手続補正書】

【提出日】平成18年5月9日(2006.5.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

人工ペプチドおよびリン脂質混合物からなる再構成サーファクタントであって、
人工ペプチドが式(I)。

$F_e G_f IPZZPVHLKR(X_a B)_n (X_b B)_m (X_c B)_n X_d GALL GL$ (I)

【式中、】

Xは、I、L、およびnL(ノルロイシン)からなる群から選択されるアミノ酸であり；

Bは、K、W、F、Y、およびオルニチンからなる群から選択されるアミノ酸であり、

Zは、エステル結合を介して側鎖に連結された12～22個の炭素原子を含むアシル基で場合により置換されていてもよいSであり；

は、M、I、L、nLからなる群から選択されるアミノ酸であり；

aは、1～19の整数であり；

bは、1～19の整数であり；

cは、1～21の整数であり；

dは、0～20の整数であり；

eは、0または1であり；

f は、0 または 1 であり；

n は、0 または 1 であり；

m は、0 または 1 であり、

n + m > 0 ; f > e 、そして (X_aB)_n(X_bB)_n(X_cB)_mX_d は最大 22 個のアミノ酸を有する配列である】

で表される S P - C 類似体であり、かつ、

リン脂質混合物が、重量比で 80 : 20 ~ 60 : 40 の範囲にある、ジパルミトイールホスファチジルコリン (DPPC) とパルミトイールオレイルホスファチジルグリセロール (PG) から選択されるパルミトイールオレイルリン脂質からなるか、またはそれらの混合物とパルミトイールオレイルホスファチジルコリン (POPC) とからなる再構成サーファクタント。

【請求項 2】

配列 (X_aB)_n(X_bB)_n(X_cB)_mX_d が、10 ~ 22 個のアミノ酸を有する配列である、請求項 1 に記載の再構成サーファクタント。

【請求項 3】

人工ペプチドが、式 (II) :

IPSSPVHLKRLKLLLLL LLLL LIGALL GL (II)

[式中、

M、I、L、および n L からなる群から選択されるアミノ酸である】

で表される請求項 1 または 2 に記載の再構成サーファクタント。

【請求項 4】

人工ペプチドが、式

IPSSPVHLKRLKLLLLL LLLL LIGALLMGL

で表される S P - C 33 である請求項 3 に記載の再構成サーファクタント。

【請求項 5】

人工ペプチドが、重量比で 75 : 25 ~ 65 : 35 の範囲にある PPC および POPG からなるリン脂質の混合物と組み合わさっている請求項 1 ないし 4 のいずれか一項に記載の再構成サーファクタント。

【請求項 6】

人工ペプチドが、重量比で 68 : 31 にある PPC および POPG からなるリン脂質の混合物と組み合わさっている請求項 5 に記載の再構成サーファクタント。

【請求項 7】

人工ペプチドが、重量比で 60 : 20 : 20 ~ 68 : 15 : 16 の範囲にある DPPC 、 POPG および POPC からなるリン脂質の混合物と組み合わさっている請求項 1 ないし 4 のいずれか一項に記載の再構成サーファクタント。

【請求項 8】

請求項 1 ないし 7 に記載のいずれか一項に記載の再構成サーファクタントの調製方法であって、

i) 該人工ペプチドと該リン脂質の溶液または懸濁液を混合する工程、および
ii) こうして得られた混合物を乾燥する工程、

を含んでなる方法。

【請求項 9】

溶液、分散物、懸濁液または乾燥粉末状の請求項 1 ないし 7 のいずれか一項に記載の再構成サーファクタント。

【請求項 10】

肺サーファクタント機能不全に関連する疾患の処置用の医薬を製造するための請求項 1 ないし 7 のいずれか一項に記載の再構成サーファクタントの使用。

【請求項 11】

疾患が、呼吸窮迫症候群 (RDS) である請求項 11 に記載の使用。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

$F_e G_f IPZZPVHLKR(X_a B)_n (X_b B)_n (X_c B)_m X_d GALL GL$ (1)

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

[式中、

Xは、I、L, nL(ノルロイシン)からなる群から選択されるアミノ酸であり；

Bは、K、W、F、Y、オルニチンからなる群から選択されるアミノ酸であり、

Zは、それぞれ、エステル結合を介して側鎖に連結された12～22個の炭素原子を含むアシル基で場合により置換されていてもよいSであり；

は、M、I、L、nLからなる群から選択されるアミノ酸であり；

aは、1～19の整数であり；

bは、1～19の整数であり；

cは、1～21の整数であり；

dは、0～20の整数であり；

eは、0または1であり；

fは、0または1であり；

nは、0または1であり；

mは、0または1であるが、

ただし以下の

- $n + m > 0$ ；

- $f \geq e$ 、

- $(X_a B)_n (X_b B)_n (X_c B)_m X_d$ は最大22個のアミノ酸、好ましくは10～22個を有する配列である、ことを条件とする]

を有するSP-C類似体の使用である。